腟癌登録実施要項　2016～

個別報告入力要領

治療患者の登録と報告は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。
（1）腟に原発した浸潤癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、腟癌治療を開始した年月日とする。外陰と腟にまたがる腫瘍は外陰癌として扱い、子宮頸部にまで広がり外子宮口におよんでいるものは子宮頸癌として扱う。
（2）診断のみ行い治療を行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。
（3）子宮頸癌と同様、臨床進行期分類が採用されているため進行期の決定にMRIやCTは使用しない。
（4）上皮性悪性腫瘍のみを登録し、肉腫、悪性黒色腫は除外する。
（5）T、N、M判定のための最低必要な臨床的な検索および画像診断が行われていない場合にはTX,NX,MXの記号で示す。
（6）手術前に他の治療が行われている例では、y記号を付けて区別する。pT,pN,pM分類については、TNM分類に準じ、病理学的pTNMが用いられる。
例：ypT2N1M0

【登録コード】

code №

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（VA20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code №

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

（1）FIGO、UICCの進行期分類は同じにすること。
（2）術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類(FIGO、TNM)は画像診断を用い、臨床進行期を推定して登録、備考1欄にypTNMとして手術所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2014、FIGO1971）

code №

10	Ⅰ期
20	Ⅱ期
30	Ⅲ期
40	Ⅳ期（亜分類不明）
41	ⅣA 期
42	ⅣB 期

2. TNM分類（UICC第7版）

1）T分類

code №

99	TX
00	T0
01	Tis
10	T1
20	T2
30	T3
40	T4

（1）Tisは上皮内癌であるが、2008年FIGO進行期分類の改定により、Tisに該当する症例は進行期分類から削除されている。
（2）T0とTXを混同しないこと。
　T0：臨床所見より腟癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。
　TX：組織学的に腟癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

2）N分類

code №

NX	所属リンパ節転移の評価が不可能
N0	所属リンパ節転移なし
N1	所属リンパ節転移あり

（注1）所属リンパ節は、腟上部2/3の場合は骨盤リンパ節（鼠径上リンパ節、閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節）。腟下部1/3の場合は鼠径リンパ節（浅鼠径リンパ節、深鼠径リンパ節）。

3）M分類

code №

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり
MX	遠隔転移の評価が不可能

3. 組織診断

1）組織型

code №

10	扁平上皮癌
20	腺癌
30	腺扁平上皮癌
90	その他
99	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

code №

10	手術
20	化学療法
30	放射線療法
40	同時化学放射線療法
99	その他の治療

（1）いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのを原則とする。ただし、上記5つの治療法のうち、代表的なもの6つまでを入力すること。

（2）術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

（3）手術、放射線療法の補助として、化学療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療法として入力しない。

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code №

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	腟癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

（1）治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

（2）癌による死亡で「腟癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「腟癌による死亡」とする。

（3）死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「腟癌による死亡」とする（「死因不明」としない）。

【最終生存確認年月日】

code №

1	（西暦年月日入力）
2	不明

（1）最終生存確認年月日を西暦で入力する。

（2）生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

（3）死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

進行期分類

1. FIGO進行期分類（日産婦2014、FIGO1971）

Ⅰ期	癌が腟壁に限局するもの
Ⅱ期	癌が傍腟結合織まで浸潤するが、骨盤壁には達していないもの
Ⅲ期	癌が骨盤壁にまで達するもの
Ⅳ期	癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの
ⅣA期	膀胱および/または直腸粘膜への浸潤があるもの、および/または小骨盤腔をこえて直接進展のあるもの、但し、胞状浮腫の所見のみでⅣ期と診断してはならない
ⅣB期	遠隔転移を認めるもの

（1）0期はFIGO分類から削除された。

2. TNM分類（UICC第7版）

1）T－原発腫瘍

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
Tis	上皮内癌
T1	腟壁に限局する腫瘍
T2	腟傍組織に浸潤するが、骨盤壁には達していない腫瘍
T3	骨盤壁に達する腫瘍
T4	膀胱および/または直腸の粘膜への浸潤があるもの、および/または小骨盤をこえて直接進展のあるもの。但し、胞状浮腫の所見のみではT4と診断しない。

（注1)泡状浮腫はT4に分類するには十分な証拠はない。したがって生検の確証を得なければならない。

2）N－所属リンパ節

NX	所属リンパ節転移の評価が不可能
N0	所属リンパ節転移なし
N1	所属リンパ節転移あり

（注1）所属リンパ節は、腟上部2/3の場合は骨盤リンパ節（鼠径上リンパ節、閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節)。腟下部1/3の場合は鼠径リンパ節（浅鼠径リンパ節、深鼠径リンパ節。

3）M－遠隔転移

MX	遠隔転移の評価が不可能
M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり（腟下部1/3の場合は骨盤リンパ節転移を含む）

＜FIGO分類とTNM分類の対比表＞

	N0	N1
T1	Ⅰ	Ⅰ
T2	Ⅱ	Ⅱ
T3	Ⅲ	Ⅲ
T4	ⅣA	ⅣA
M1	ⅣB	ⅣB